

# 1. 評価結果概要表

作成日 平成19年11月27日

## 【評価実施概要】

事業所番号	3271900239		
法人名	特定非営利活動法人 弥栄発生活りハビリネット		
事業所名	グループホーム ふじいさんち		
所在地	島根県浜田市弥栄町野坂92番地 (電話) 0855-48-2939		
評価機関名	特定非営利活動法人 コンティゴしまね		
所在地	島根県松江市西持田町362-42		
訪問調査日	平成 19年 10月 23日	評価確定日	平成19年11月27日

## 【情報提供票より】(19年10月2日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成 13年 8月 1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	11 人	常勤 6 人, 非常勤 5 人, 常勤換算 6.0 人	

### (2) 建物概要

建物構造	木造 造り		
	2階建ての 1階 ~ 2階部分		

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000 円	その他の経費(月額)	水道光熱費	実費
敷金	有( 円)	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有( 円)	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	180 円	昼食	300 円
	夕食	300 円	おやつ	0 円
	または1日当たり 円			

### (4) 利用者の概要(10月2日現在)

利用者人数	8 名	男性	1 名	女性	7 名
要介護1	1 名	要介護2	1 名		
要介護3	2 名	要介護4	3 名		
要介護5	1 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 86.5 歳	最低	82 歳	最高	93 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	西川病院、田中歯科金城医院
---------	---------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

市街地から離れてはいるものの、のどかな山間地の田園風景の中に優しく溶け込んで、ホームの暮らしが展開されている。地域の高齢者の生活を支えようと設立されたNPO法人が運営しており、グループホームを中心に健康セミナーなど地域住民との繋がりを大切にしている。「住み慣れた場所で普通に暮らすこと」「笑って過ごせる人間関係」「ひとりひとりの思い」を大切にという理念を暮らしの随所に活かし、個別ニーズや本人・家族の思いに視点を当て、ひとりひとりの心豊かな人生への目配りのあるケアが提供されている。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回の改善課題については評価シートを作り項目ごとに課題解決に向けた検討をしている。課題によってはすぐ改善できたものもあるが具体的な実践に至っていないものもあり、継続した取り組みが期待される。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>運営者と職員で、日々のサービスの振り返りをしながら取り組んでいる。自己評価については、申し送り簿を中心に管理者とスタッフの意見交換をしながらケアに活かしている。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>行政(支所市民福祉課保健師)、近隣、家族代表、親しくしているグループホーム代表により2ヶ月に1回開催している。会議では報告のみに終わらず、其々の委員の立場からの意見、要望、情報を受け、次回の会議ではその経過報告をきちんと行うなど実りある会議となっている。具体的には災害対策、地域行事など、地域との連携を深める成果が上がっている。</p>
	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>苦情相談窓口を重要事項説明書に明示している他に、意見、不満、苦情を家族会や訪問時などに積極的に聴き取る努力がされている。聴取した意見は手元におかず早急に解決に向けて取り組んでいる。苦情処理簿を作り、聴き取りから解決までの過程を記録し運営推進会議や職員のミーティングで話し合うことで、更なるサービス向上につなげることが望まれる。</p>
重点項目③	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>地域の敬老会やスポーツ大会、自治会のまき・団子作りなど、利用者の意向を聞きながら積極的に参加している。又、小中学校や医学生生の訪問や、詩吟など町内の人達に来所してもらっ催しもあり、双方向での交流がある。さらに近隣の人たちは草刈や畑の世話など日常のお付き合いをしており、地域に溶け込んだ暮らしぶりが見られる。</p>
重点項目④	

## 2. 評価結果（詳細）

（  部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域での高齢者の生活を支えようと山里の民家を活用したホームで、「住み慣れた場所で普通に暮らすこと」を理念として広報誌やパンフレットに掲載し、年4回に町内全戸に発信することで、事業所と地域の関係性を深めることを大切にしている。		
	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	スタッフがミーティングするログハウスには理念が書かれたパンフレットが大きく拡大されて掲示しており、又、リビングの壁にはさおり織りのタペストリーに、入居者が自分で解釈し自らの手で書いた理念が貼られている。職員は申し送りノートを中心にした日常ケアの振り返りの際に、よく理念に触れ、共有や実践に向けて努力している。		
2. 地域との支えあい					
	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	敬老会やシニアスポーツ大会、自治会のまき・団子作りなど、地域の行事には積極的に参加している。小中学校、医学生の訪問や、詩吟など地域の人に来てもらう催しも開いており、双方向での交流を大切にしている。困った時(蛇が出た)や、草刈、畑作りの応援など、日常のお付き合いもしている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	今回の自己評価は、運営者、管理者、主任が日頃のケアを振り返りながら、取り組んでいる。前回の外部評価の課題提議については、改善計画シートを利用し項目ごとに改善に向けた検討が職員間でなされている。	○	課題によっては改善したものもあるが、検討はしたもののまだ具体的な実践に結びついていないものもあり、継続して改善に向けての努力が望まれる。
	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	行政(支所)、近隣、家族、同業者の参加がある。会議では報告のみに留まらず、其々の委員の立場から、防災やレクリエーション、地域交流などの意見、要望、情報を受け、次回の会議ではその経過報告を行うなど双方向での会議となってサービス向上に活かしている。評価についても話題提供し、話し合っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市町村合併により大きな市となったが、運営推進会議に参加している弥栄支所市民福祉課保健師を通じても相談できる。水害時の避難場所について確認したところ本庁と支所で検討、避難場所が確保できた。圏域行政により「地域密着系部会」が設けられている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	暮らしの一コマを写した写真をたくさん掲載した個別の便りを送り、その感想が届くなど双方向の交流がある。金銭管理報告も毎月行われており、法人の広報誌「やまとだより」も年4回送られている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情相談窓口を重要事項説明書に明示しているほか、家族会や訪問時など機会を捉えて、意見、不満、苦情を積極的に聴き取る様にし、素早く解決するようにしている。家族から来訪時過ごせるスペースが無いと言われ、話し合っ工夫したという経過がある。	○	聴き取った意見などは運営に取り入れられたり解決したりしているが、出来れば苦情処理簿を作り、聴き取りから解決までの流れを残し、職員間で共有したり運営推進会議に報告して意見を聞くなど、サービス向上に役立てることが望まれる。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	異動や離職はほとんどない。昨年1名寿退職があったときには利用者にも事情を話し、一緒に送別パーティーを企画するなど時間をかけ理解してもらった。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	派遣研修の大切さは理解しており、パートを含み順次受講できるよう配慮しているが、認知症介護実践研修は順番待ちとなっている。自己努力で資格取得するなど職員は熱心である。運営者もケアの現場に入り、気付いたことを伝え資質向上に努めている。外部からの実習生の声を活用することも多い。	○	派遣研修、内部研修とも研修計画を組んで実践に向けて取り組んで欲しい。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	圏域において「地域密着系部会」が2ヶ月に1回開催されており参加している。しまね小規模ケア連絡会にも加入している。親しくしているグループホームから運営推進会議に出席してもらったり、交流の為訪問を受けたりして色々学ぶ機会となっている。	○	「地域密着系部会」で先輩事業所として研修を提案し、圏域のサービス向上につなげてほしい。同業者との交流は、こちらからも訪問して、相互にサービスの向上を目指して欲しい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	家へ訪問したり、見学に来てもらったりして納得してから利用をすすめている。納得が不十分なままの入居もあり、職員は本人の思いを受け止め、個別の対応をしながら馴染めるように努力をしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	料理作りで学ぶことが多い。昔からの料理、米のとぎ汁の使い方、ことわざ、言い習わしなど生活の知恵を受け止めている。利用者が自分の意思で活動したり意志表示できるよう、言葉かけの工夫をしているが、意識しすぎる面もあり、もう少し自然にできるようにしたいと考えている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は日々の関わりの中で個々の思いを把握するようにしている。ほとんどの人が終日1階のリビングを中心に過ごしているので性格や視力や聴力に配慮し、共同生活の中で取り残されないよう細心の心配りをしている。工夫した個人生活ファイルがあり、日々、24時間の生活リズムと活動を記録している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画は本人、家族の意向を聞き、基本的ニーズとして①健康面の支援、②ADLの支援、③日常行動面の支援の3点、個別のニーズとして墓参りなどの目標を設定している。作業療法用のアセスメントシートやセンター方式で関係的アプローチ、情緒、居住環境、できることなどもチェックし参考にしている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	日頃は申し送りノートを活用し、月1回のスタッフ会で話し合い、見直しにつなげている。家族会で来所されたときに一人ひとり目標についての話し合いをしている。特別の問題が生じたときは関係者で話し合ったり臨時のスタッフ会を開き即刻対応している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療連携体制をとっていないが、利用者の状況やニーズに応じホームで出来る範囲で柔軟に対応できるようにしている。状況により、り受診時の送迎もしている。開設後6年になるが、設備面でゆとりがないため、通所や短期利用は予定していない。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	できるだけ入居前のかかりつけ医の受診継続をすすめている。町内の診療所も受診しているが、24時間体制ではないため協力医療機関契約はしていない。受診付き添いは原則家族だが生活の様子を伝えたり、状況によっては送迎や付き添いをしている。	○	町外の医療機関受診時には、主治医にホームでの様子が伝えやすい情報提供の方法の工夫を試みてほしい。
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	2階建ての民家活用のホームで設備面で重度化対応が困難であり、また24時間365日対応できる医療機関が町内にないため医療連携体制をとっていない。重度化した場合は利用者に不利益にならないよう本人、家族と話し合いを重ね、最終的には理事会で評価表により判断し、適切な施設や病院へ移れるようにしている。	○	急変時や入院時などにも、ホームの体制を説明し、家族の意向を把握しておくことが望まれる。生活リハビリや健康管理、事故防止、医療機関との連携等により、住み慣れたホームでの生活がなるべく継続できるような支援を期待したい。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	丁寧すぎないように、くだけすぎないように言葉使いに気をつけている。日中ほとんどがリビングで一緒に過ごしているので話しかけ、トイレや入浴の誘導の仕方なども気をつけている。広報紙の写真掲載など個人情報使用については本人、家族の了解は得ているが文書による同意は得ていない。	○	個人情報の使用については文書による同意を得たほうが望ましいので様式を検討してほしい。
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	理念に「ひとりひとりの思いを大切に」と掲げており、個々のペースを尊重し、優先させている。朝遅く起きる人、ゆっくり食事をする人、屋外に出かけたい人、調理の好きな人、話が好きな人、周囲の雰囲気敏感な人など職員は心の動きを敏感にキャッチし個別対応している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者が調理に多く参加できるようにと炊き込みご飯や汁物、煮物など多種類の野菜を使った献立を立てている。すり鉢で花かつおや胡麻を擂ったり白和えをつくり馴染んだ作業を取り入れている。栗や柿をテーブルに置くと利用者が自然に皮むきをされる。調理に参加できる人が増え、生活リハビリにしている。野菜市にも一緒に出かけている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴を楽しみに待っている人が多く、夕食前後に個別に希望を聞きながら誘っている。毎日入る人も3~4人ある。入浴を好まない人については気分のよさそうな時にタイミングをみて誘っているが、拒否されることもあり課題としている。	○	入浴を拒否される人について、声かけ、気分、入居者同士の関係性、生活習慣など再点検したり、足湯を試みるなど更に検討してみしてほしい。
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	野の花を生けて来客を迎えたり、日々の食事の支度など家事の役割を楽しんで取り組む人が多い。詩吟の会では思いがけない人が一緒に歌われることもある。菜園での収穫や門松用にコモ編み、雪の季節に使う滑り止用のむしろ編みなど生活経験をホームの中でも継続できるようにしている。	○	役割や楽しみごとが少なくなっている人にもできる手仕事や娯楽のメニューを広げてみて欲しい。
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気の良い日は玄関前でひなたぼっこをしたりお茶を飲んだり戸外の風に触れるようにしている。ホーム入口の畑をボランティアで作ってもらっておりさつまいもの茎を取ったり芋ほりなど戸外で過ごす楽しみがある。八幡宮への散歩、野菜の無人市への買い物、美容院など職員と一緒に出かけている。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関は施錠していない。散歩希望には付き添っている。天気の良い日は玄関前のテラスでお茶を飲んだり景色を眺めて過ごせる。近隣の人はホームの存在を知っており、一人で散歩している人があると心配して通報もある。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	火災避難訓練は消防署や近隣の協力で年2回行い、消火器の実演訓練には利用者の参加もあった。運営推進会議で水害時の避難場所について相談したところ、行政の協力により、診療所が使えるようになり連絡方法も決めている。災害備蓄として米や薪などは十分にある。	○	災害についての対応マニュアルの作成も試みてほしい。避難場所が確保できたので、最低限必要な非常持ち出しについても検討してみしてほしい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	野菜は地元産や旬のものなど毎日15種類以上使っている。食事に時間がかかる人やムラがある人は時間をかけたり補食し1日のトータルで見ている。摂取量が少ない場合は記録をし、高栄養食品で補充することもある。テーブルに土瓶を置きお茶のお代わりをすすめている。熱発した時は水分チェックもしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ペンション風の民家を活用しており、窓の外には樹が植えられ常に季節を感じられる。日中はほとんど全員がリビングで過ごすので休憩用に毛布もおいている。職員は会話や声がけなど常に気遣いしている。床暖房、リハビリマット、手すりなど快適性、安全性の工夫をしている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族に相談し、タンスや衣紋架け、鏡台、小物など持ってきてもらっている。家族の写真を飾ったり、庭の花を一緒に活かしたりして居心地よく過ごせるようにしている。居室の掃除は職員が主に行っている。民家活用のため居室の向き、広さはそれぞれちがいが、表札はつけていないが、家族が気遣って名札を貼っている部屋もある。		